

---

**MOthers**

証券コード

3773

## 2008年3月期中間決算

---

説明会資料 2007年11月16日



**Advanced Media, Inc.**

株式会社アドバンスト・メディア

代表取締役社長 鈴木 清幸

**. 08年3月期(11期)中間期実績 ・通期見通し**

**. 各事業の実績と見通し**

**. 当面の課題とその対応について**

<ご案内>

本資料に記載された見解、見通し、ならびに予測等は、資料作成時点での弊社の判断であります。その情報の正確性を保証するものではありません。市場環境等の様々な要因等により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。ご承知おきのほど、お願い申し上げます。

**.08年3月期(11期)中間期実績・通期見通し**

---

**1. 業績及び見通しのハイライト**

# 08年3月期中間期・通期ハイライト(連結)

## 1)08年3月期中間実績ハイライト

### 【売上・利益の状況】

	07/3中間期	08/3中間期
売上高	1,584百万円	1,253百万円
・音声事業	720百万円	605百万円
・テレマーケティング事業	884百万円	678百万円
・その他事業	12百万円	1百万円
(内部売上高相殺)	(33百万円)	(31百万円)
売上総利益	622百万円	336百万円
営業利益	551百万円	906百万円
当期利益	627百万円	2,472百万円

**売上高:** 音声事業は大型案件ソリューションに注力し営業案件増加するものの売上計上に至らず。既存顧客の深耕及びチャネル開拓の遅れにより短期的売上が見込める既存ソフトウェア製品販売が目標に到達せず。テレマーケティング事業は需要一巡による回線販売の不振と新規事業の立ち上がりの遅れにより売上が減少。

**営業損失:** 音声事業は、売上減少により、人件費など高い固定費負担をカバーできず営業損失計上。取引会社の業務停止命令による貸倒引当金繰入により営業損失拡大。

**特別損失:** 開発当初の販売計画に達する見込みの低い販売用ソフトウェア、及び収益改善に寄与しない社内用ソフトウェア資産の臨時償却、業績不振である子会社エムシーターの株式価値再評価による、のれんの減損により特別損失計上。この結果、当期利益は、過去最大の赤字。

## 2)08年3月期通期見通しハイライト

### 【売上・利益の状況】

	07/3期	08/3期(予)
売上高	3,111百万円	2,775百万円
・音声事業	1,539百万円	1,500百万円
・テレマーケティング事業	1,610百万円	1,325百万円
・その他事業	16百万円	3百万円
・(内部売上高相殺)	(55百万円)	(53百万円)
売上総利益	1,045百万円	
営業利益	1,262百万円	1,554百万円
当期利益	1,365百万円	2,911百万円

**売上高:** 音声事業は、販売部門再編により前期実績を維持。一方テレマーケティング事業については収益の確保できるカウネット事業に期待するも、主力の通信回線販売の新規受注獲得が引続き厳しい状況と予想、新規商材の立ち上がりも遅れ、全体としては減収見通し。

**営業損失:** 音声事業は、パッケージ製品販売事業とソリューション事業に再編し、選択と集中を実践。効率経営を目指すが効果が現れるのは来期以降。下期も営業損失が続く。

**特別損失:** 上期に全額計上したため、下期はゼロ想定。

# 経営改善計画における主な損失内訳

平成19年9月28日発表の経営改善計画における、事象別損失は以下の通りとなります。

➤MC2株式減損	821百万円( 798百万円)
2005年10月に買収した子会社MC2株式に関連して、買収当時の事業プランに比べて、売上の大幅な減少など、現状のビジネス状況が乖離しているため、現在の株式価値に評価替えを行いました。	
➤ユナイテッドパワー社関連取引	287百万円( 287百万円)
本関連取引において、債権等の取立て不能または、遅延の可能性がある発生し、同社に対する売掛金債権186百万円、未納品在庫高等101百万円合わせて、287百万円を費用計上致しました。	
➤ソフトウェア資産減損	688百万円( 550百万円)
販売用ソフトウェアに関連して、開発当初の販売計画と大幅に乖離したため、減損することと致します。また、社内用ソフトウェアも期待したコスト削減効果が無いものに関しては、減損処理を致しました。	
<b>損失合計</b>	<b>1,796百万円(1,635百万円)</b>

注：括弧内は、経営改善計画発表時の想定数値

ユナイテッドパワー社関連取引に関しては、一般管理費における貸倒引当金繰入(187百万円)と商品評価損(100百万円)として特別損失に分けて計上しております。

# 08年3月期中間実績(連結)

- P/L -

Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンスト・メディア

- ・売上高は、07年3月期中間実績を331百万円を下回ったが、内訳は音声事業が 115百万円、テレマーケティングが 206百万円、その他が 11百万円であった。
- ・売上総利益は、07年3月期中間実績39.2%から26.8%に低下。音声事業、テレマーケティング事業、共々、原価率が大幅に上昇。
- ・取引会社の業務停止命令における貸倒引当金繰入により営業損失計上、販売用・社内用ソフトウェアにおいて同資産の減損処理、加えて子会社エムシーターの株式価値再評価に伴い、のれんの減損処理による特別損失も計上。単体の大幅な赤字と当中間期におけるのれんの減損から、通期でも赤字見込み。

(単位:百万円)

	07年3月期		08年3月期		中間期増減
	中間期	通期	中間期	通期(予)	
売上高	1,584	3,111	1,253	2,775	330
原価	961	2,065	917	-	44
売上総利益	622	1,045	336	-	285
営業利益	551	1,262	906	1,554	355
利益率	34.8%	40.6%	72.3%	56.0%	-
経常利益	558	1,325	863	1,577	305
利益率	35.2%	42.6%	68.9%	56.8%	-
特別損失	0	8	1,606	-	1,606
当期利益	627	1,365	2,472	2,911	1,845
利益率	39.6%	43.9%	197.2%	104.9%	-

# 08年3月期中間実績(単体)

- P/L -

Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンスト・メディア

・売上高は、07年3月期中間実績を115百万円を下回ったが、内訳はメディカル 31百万、E&E112百万円、ビジネス 88百万円、金融 38百万円、公共20百万円、その他 89百万円であった。

・売上総利益は、07年3月期中間実績を121百万円下回り、粗利益率は、34.3%から20.8%へ低下。E&E部門でのハードウェア仕入れの増加、ソフトウェア資産償却負担増が要因である。

・取引会社の業務停止命令における貸倒引当金繰入により営業損失計上、販売用及び社内用ソフトウェアにおいて同資産等の減損処理、加えて子会社エムシーツ株式価値再評価に伴い、株式評価損による特別損失も計上。これら処理に伴い、下半期ソフトウェア償却負担が軽減され、経営改善計画に基づいて一般管理費削減するも、本格的な収益効果は来年度以降見込まれ、通期では赤字予想。

(単位:百万円)

	07年3月期		08年3月期		中間期増減
	中間期	通期	中間期	通期(予)	
売上高	720	1,539	605	1,500	115
原価	472	1,176	478	-	6
売上総利益	247	362	126	-	121
営業利益	460	1,043	752	1,310	291
利益率	64.0%	67.8%	124.3%	87.3%	-
経常利益	444	1,010	740	1,289	295
利益率	61.7%	65.6%	122.3%	85.9%	-
特別損失	-	8	1,738	-	-
当期利益	444	1,023	2,481	2,811	2,036
利益率	61.8%	66.5%	410.1%	187.4%	-

# - 4 . 08年3月期中間実績 (連結) - B/S -

Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンスト・メディア

(単位: 百万円)

	07年3月期		08年3月期		
	中間期	通期	中間期	中間期 増減	備考
固定資産	3,415	3,046	1,157	2,258	ソフトウェア資産・関係会社株式の減少
流動資産	2,985	2,723	1,853	1,131	貸倒引当金繰入による減少、現金の減少
資産合計	6,400	5,769	3,010	3,389	
固定負債	186	171	29	156	
流動負債	1,193	1,195	1,016	176	
負債合計	1,379	1,366	1,046	333	
資本金	3,479	3,511	3,525	46	
純資産合計	5,021	4,402	1,965	3,056	中間期純損失拡大のため
負債純資産合計	6,400	5,769	3,011	3,389	



# - 5 . 08年3月期中間実績 (単体) - B/S -

Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンス・メディア

(単位:百万円)

	07年3月期		08年3月期		
	中間期	通期	中間期	中間期 増減	備考
固定資産	3,247	3,154	1,573	1,674	ソフトウェア資産・関係会社株式の減少
流動資産	2,603	2,297	1,267	1,336	貸倒引当金繰入による減少、現金の減少
資産合計	5,850	5,452	2,840	3,010	
固定負債	70	70	0	70	
流動負債	752	868	780	27	
負債合計	823	939	780	42	
資本金	3,479	3,511	3,525	46	
純資産合計	5,027	4,512	2,059	2,967	中間期純損失拡大のため
負債純資産合計	5,850	5,452	2,840	3,010	

## 【ハイライト】

- ・営業活動によるキャッシュフローの減少: 中間営業損失の拡大
- ・投資活動によるキャッシュフローの増加: 投資有価証券売却による収入、無形固定資産取得の減少
- ・財務活動によるキャッシュフローの減少: 借入金の返済による支出。

(単位: 百万円)

	07年3月		08年3月	
	中間期	通期	中間期	中間期増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	166	602	444	277
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,176	1,080	64	1,241
財務活動によるキャッシュ・フロー	322	486	60	383
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	19	13	5
現金及び現金同等物の増減額	1,011	1,176	426	585
現金及び現金同等物の期首残高	2,898	2,898	1,724	1,173
現金及び現金同等物の期末残高	1,887	1,724	1,298	588

## **. 各事業の実績と見通し**

---

### **1 . 音声事業の業績及び見通し**

# 音声事業の中間期実績と通期見通し

## 収益の実績と見通し

単位:百万円

	07年3月期 中間	08年3月期 中間実績	08年3月期 見通し
売上高	720	605	1,500
営業利益	460	752	1,310
当期利益	444	2,481	2,811

注) アドバンスト・メディア単体

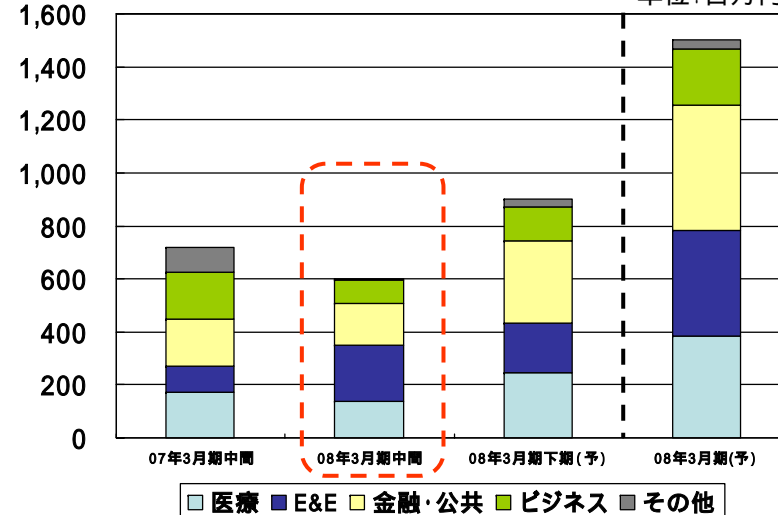
ソリューション案件傾倒のため、短期的な売上が見込める既存製品販売縮小し、売上高減少。ソフトウェア資産の臨時償却、子会社株式評価損計上、債権等の取立て不能等による費用計上で損失拡大。

### 【実績ハイライト】

医療分野:調剤薬局向け好調だったが主力の放射線科向け販売が伸び悩み、目標に到達せず。  
 教育及びエンターテインメント(E&E)分野:E-learningコンテンツ販売は前年比減少だが実績の積み重ねで知名度が向上、大手教育会社への受注が決定。  
 金融・公共分野:大手生保、製薬会社の案件受注。議事録は自治体事例20突破。今期から開始した民間企業導入数3企業と好調な滑り出し。  
 ビジネス分野:物流での「音声ピッキング」システムが注目、案件増加。  
 モバイルプロジェクト:NTTドコモ「らくらくホン」音声認識技術搭載。その他携帯電話向アプリのサービスを開始。

## 分野別売上高推移

単位:百万円



下半期より販売体制をパッケージ製品販売とソリューション販売部門に分け、営業効率を向上させることで堅実な売上増加と収益力改善を図る。

### 【計画達成の取り組み】

- パッケージ製品販売部門
- 医療分野:代理店を強化、大規模～中小販売網へと裾野の広いマーケットへ販路を広げる。
  - 議事録分野:レンタルなど販売方法の多様化で顧客の初期導入費用軽減により、幅広い顧客への導入を促進。
- ソリューション販売部門
- 金融分野:コンプライアンス対応や業務改善・効率化支援などのソリューションをメニュー化し、顧客の選択肢を広げる。
  - エンターテインメント分野:アーケード、コンシューマ向けゲーム端末への導入促進。
  - モバイル分野:『音声認識対応』携帯端末向けソリューション及びサービス事業に注力。音声認識を利用するコンテンツ・プロバイダの増加促進。

**. 各事業の実績と見通し**

---

**2 . 音声事業の上期実績**

# 音声事業・4+1事業ドメイン概要

Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンスト・メディア

07年3月期より、音声事業において営業と開発を一体化させ、

4つの事業(+モバイルプロジェクト)ドメイン別に

音声認識ソリューションを展開。

医療

医療機関単位に医療向けパッケージ以外の音声認識ソリューションの受託・販売を推進。

教育/エンターテインメント

教育関連ソフト・家庭用ゲーム・オンラインゲーム・携帯ゲーム・カラオケゲーム向けの音声認識を使ったシステムの開発・販売を継続。



Advanced Media, Inc.

ビジネス  
開発

データエントリーの手段として音声認識ソリューション・声紋認証を販売。

金融・議事録

コンプライアンス強化を受け、金融系ユーザを中心にCTIや議事録作成支援システムの音声認識ソリューションを展開。

モバイル

## ●2007年4月～9月の実績

### 医療分野向け販売の状況とトピックス

- ✓ 代理店販売が全体の55%を占め、良好な関係を維持
- ✓ ソフトウェア保守がコンスタントな数字を作りつつある
- ✓ 大手生命保険会社「診断書テキスト化処理システム」導入  
横展開で同業他社に提案開始
- ✓ 経済産業省のプロジェクトによる研究テーマに参画

## ●2007年4月～9月の実績

### ゲーム/エンターテインメント分野販売の状況とトピックス

- ✓ 大手自動車メーカー販売店向け情報端末への音声ゲーム提供決定
- ✓ 大手ゲームメーカー向けアーケードゲームへの組込開発提案

### 教育分野上期のトピックス

- ✓ 大手教育会社のE-learningコンテンツへの音声認識組込が決定
- ✓ E-learningでの知名度が上がり、引き合いが増加
- ✓ CALL Pronunciationの技術を使ったカスタマイズ教材が好調



## ●2007年4月～9月の実績

### 金融分野向け販売の状況とトピックス

- ✓ 金融商品取引法の施行スタートに合わせ、コールセンターの音声認識IVR需要が増加
- ✓ 証券会社に対し、株価案内端末の横展開へ
- ✓ 大手生保、製薬会社等の案件受注

### 議事録分野向け販売の状況とトピックス

- ✓ 株主総会支援システム販売開始
- ✓ 東京都議会総務委員会本格稼動
- ✓ 自治体事例20自治体突破(最北端の稚内に導入)
- ✓ 民間導入数 3企業と好調な滑り出し

## ●2007年4月～9月の実績

### ビジネス分野向け販売の状況とトピックス

- ✓ 物流での「音声ピッキング」システムが注目、案件増加
- ✓ 「開けドア」システム実績による認証案件増加
  - 民間企業向け声紋認証システム「AmiVoice Guard」発売
  - 携帯電話認証、PC認証システムの導入
- ✓ 「Scene Director for IP-Phone」(Cisco協業)の導入
- ✓ 工場向け音声データ入力システム導入

## ●2007年4月～9月の実績

### モバイル・プロジェクト 販売の状況とトピックス

#### ✓ 携帯電話向けアプリケーション開発

NTTドコモ「らくらくホン」音声認識技術搭載

WillcomW-ZERO3向け「シャベルン」(英会話コンテンツ)スタート

WillcomW-ZERO3向け「AmiVoice乗換案内」 版サービススタート

NTTドコモ公式サイト「声ちえき」のサービススタート

NTTドコモDSRクライアント搭載端末の発売スタート

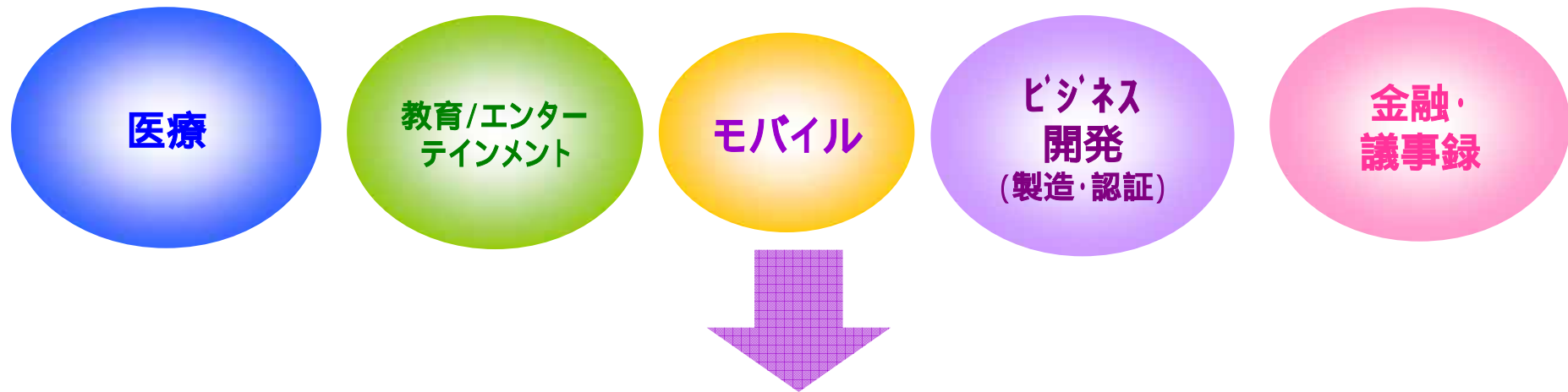
CP向けAmiVoiceDSRサーバー提供スタート

**. 各事業の実績と見通し**

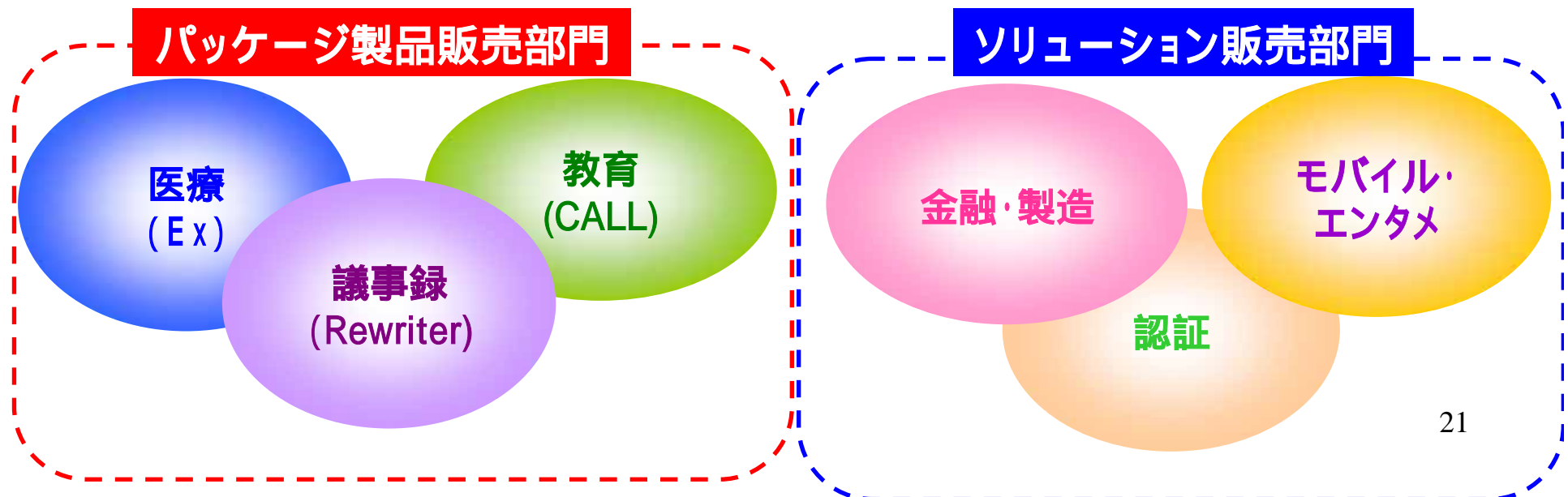
---

**3 . 音声事業の下期施策**

# 新事業ドメインの概要



パッケージ製品販売部門とソリューション販売部門に分け、それぞれの専任部隊を構成することにより、営業効率を向上させ、売上の増大と利益率の改善を行う。



# パッケージ製品販売部門の下期施策

## ●2007年10月～2008年3月の施策

### ✓医療分野:

- 代理店強化 → 大規模～中小販売網へと裾野の広いマーケットへ
- 代理店に対してインセンティブ見直し
- 専門営業部隊による全国ローラー作戦
- 既存顧客の掘り起こし → 追加受注及びソフトウェア保守の拡大へ
- 医療向け新規分野(内視鏡など)へのアプローチ開始

### ✓議事録分野:

レンタルなど販売方法の多様化で初期導入費の軽減

→ より広い顧客への導入促進

新製品の販売(話者認証機能付加)で自治体採用のてこ入れ

文教市場(講義録書き起こし)への進出

## ソリューション販売部門の下期施策

### ●2007年10月～2008年3月の施策

#### ✓金融分野:

主要ラインナップ ➡ IVR、音声データ分析・マイニング解析、営業日報  
コンプライアンス対応や業務改善・効率化を支援する

ソリューションをメニュー化 ➡ 顧客の選択肢を広げる  
金融向け大手SIerをパートナーとして、大手金融機関に注力

#### ✓エンターテインメント / 教育分野:

アーケード、コンシューマ向けゲーム端末への導入促進  
E-learningコンテンツを文教市場に向けて横展開

#### ✓モバイル分野:

『音声認識対応』携帯端末向けソリューション及びサービス事業に注力  
➡ 音声認識を利用するコンテンツ・プロバイダの拡大  
➡ 法人向けソリューション(営業日報、検査入力等)の推進

**. 各事業の実績と見通し**

---

**4 . テレマーケティング事業・  
その他事業の業績及び見通し**



# テレマーケティング事業・その他事業の実績と見通し

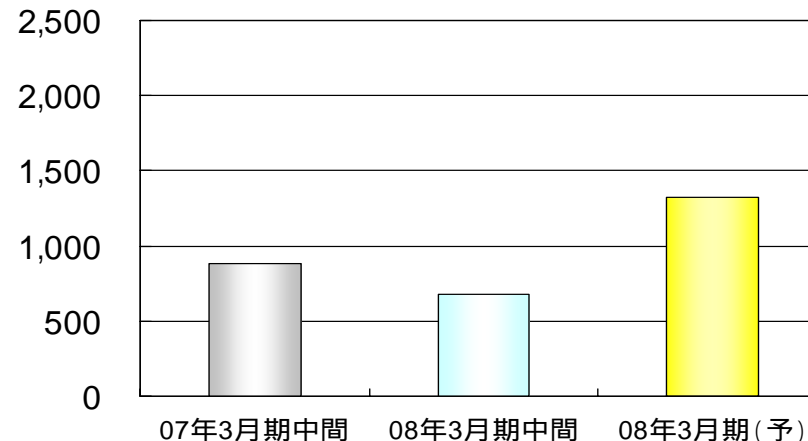
テレマーケティング事業 収益の実績と見通し

単位: 百万円

	07年3月期 中間	08年3月期 中間実績	08年3月期 見通し
売上高	884	678	1,325
営業費用	975	839	-
営業利益	91	160	-

テレマーケティング事業 売上高推移

単位: 百万円



電話回線販売の需要一巡と競争激化で新規受注獲得が伸び悩み。  
株式再評価を行い、のれんの減損を計上。

オフィス用品通販(カウネット事業)に注力しつつ、コスト管理を推し進める。  
のれん代は中間期の減損処理で下期から減少。

## 【テレマーケティング事業 ハイライト】

主力の電話回線販売は需要が一巡し、競争も激化したことから新規受注獲得が不振。  
新商材の販売も事業が立ち上がるまでには至らず。  
株式再評価を行い、のれんの減損を計上。  
ソフトウェア資産の減損を計上。

## 【テレマーケティング事業 計画達成の取り組み】

引続き電話回線販売とオフィス用品通販(カウネット事業)に注力。  
当社開発のコンシューマ向け音声認識ソフト『AmiVoiceEs2008』の販売を開始。  
コスト管理を徹底。

## 【その他事業 ハイライト】

タウン情報誌においてボイスクーポン検索サービスを開始。  
携帯電話における声の検索サービスは、DSR端末の普及の遅れによりビジネス立ち上がりが進まず。

## 【その他事業 計画達成の取り組み】

携帯電話における声の検索サービスに引続き注力。  
音声認識技術を使った携帯アプリなどの新規サービスを展開。

**. 当面の課題とその対応について**

---

**改善計画の概要**

## 売上急増に頼らない収益改善 ～ 固定費及び変動費率削減による損益分岐点の改善～

### 施策

将来的に販売可能性の低い販売用ソフトウェア及び期待どおりの収益改善に寄与しない社内ソフトウェア資産の減損処理による償却負担の軽減

### 施策

高利益率のパッケージ製品の販売に注力する営業部門の立ち上げと売上に占めるパッケージ製品比率の向上

### 施策

人材の適材・適所の見直し、パフォーマンス評価の徹底、外注の見直しによる総人件費の削減

### 施策

選択と集中による研究開発費の更なる削減

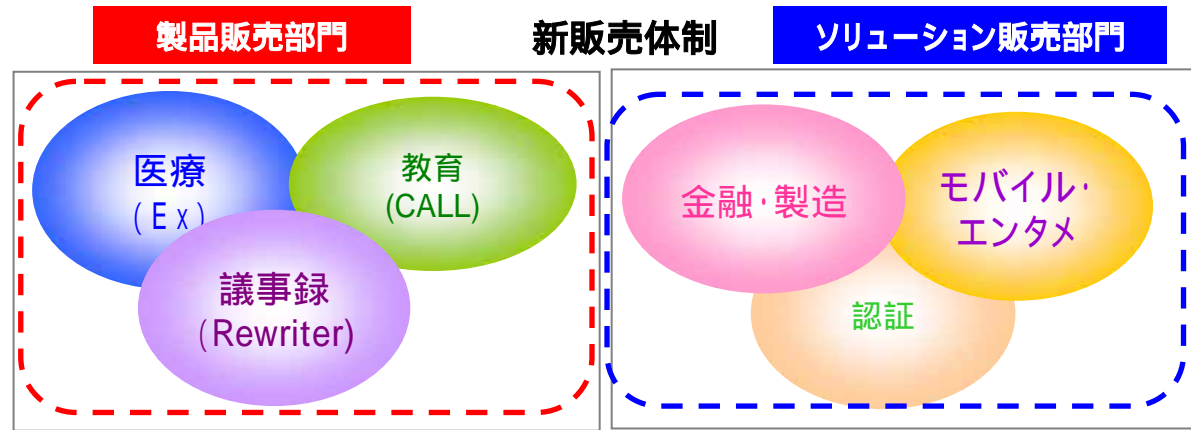
### 施策

オフィスの移転などによる販売管理費の削減

【参考】連結：子会社株式の時価評価による減損処理 のれん償却負担の減少

# 堅実な売上増加と収益力改善のための施策

パッケージ製品販売部門とソリューション販売部門に分け、それぞれの専任部隊を編成することにより、営業効率を向上させ、売上の増大と利益率の改善を行います。



## 現状の課題

- 4つの各ビジネスラインが、それぞれのマーケットでソリューション製品とパッケージ製品を混在して販売した結果、ソリューション販売により多くのリソースが集中し、パッケージ販売が伸び悩んだ。
- 開発要員が各ビジネスラインに配置され、リソース活用が非効率であった。
- ソリューション販売においては、選択と集中が当初目標より進まず、新規案件発掘のためのリソースが多くなり、結果として、期待した販売が得られず利益率の悪化を招いた。
- パッケージ販売において、代理店網の整備がおくれた。

## 改善施策

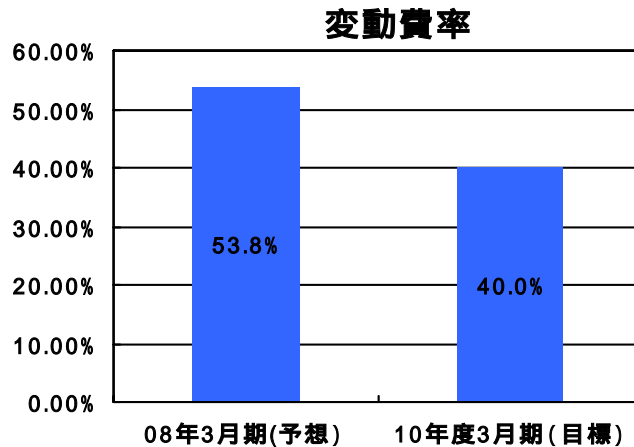
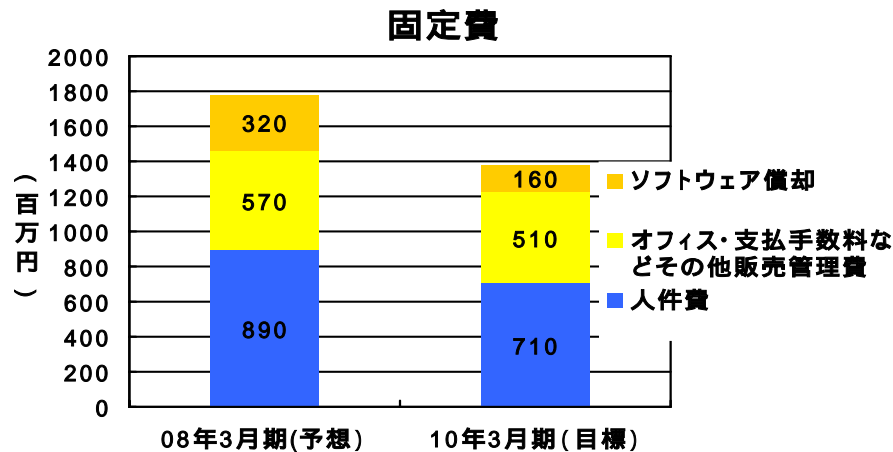
- 製品販売部門とソリューション販売部門に分けて、より多くのリソースを製品販売部門に配分し、ソリューション販売事業は少数のスペシャリストで行う。
- 各ビジネスラインに配属されていた開発陣を2分野に再配分することによって、非効率性を改善し利益率を高める。
- ソリューション営業においては、更に案件を絞り込み、収益の見込める案件に特化する。
- 営業案件管理を徹底して、クロージング効率を向上させる。
- 製品販売チャンネルの再構築
- ソリューション販売事業の成果物をパッケージ製品化し、パッケージ製品販売部門で販売する構造を確立する。

- ➡ 堅実な売上コアの確立
- ➡ 開発陣の重複を排除
- ➡ 売上のスケールアップ
- ➡ 確実な案件刈取り
- ➡ 無駄な開発・営業活動の排除
- ➡ 製品数拡大による増収効果

2010年3月期までに、製品販売の比率を60%超に高め、開発効率化との相乗効果により、販売を拡大しながら、変動費率の改善を目指します。

# 施策による具体的数値目標

## 今後2年間で利益の出る収益構造ヘシフト



**人件費削減** 180百万円  
 ・派遣社員の正社員化  
 ・パフォーマンス評価の厳格化  
 ・適材・適所の見直し

**オフィス経費削減** 60百万円  
 ・事務所移転

**ソフトウェア償却費削減** 160百万円  
 ・ソフトウェア資産減損による

**合計** 400百万円

**\* のれん代償却費削減** 220百万円  
 ・子会社MC2株式資産減損による

### 変動費率改善

ソリューション事業の変動率の改善と利益率の高いパッケージプロダクト販売事業とのバランスの取れたポートフォリオの構築

### 改善目標

53.8% → 40.0%

# 資金調達について

平成19年10月17日付で「**第三者割当てによる新株式及び行使価格修正条項付第1回新株予約権(第三者割当て)**」を発行しました。

発行後、11月16日現在まで、1,084,431,000円を調達いたしました。

現時点で発行済み新株予約権のうち、20,125株式分は未行使であります。

(11月13日株価換算で約13億円相当)

当社は新株予約権の行使を強制、停止する権利を持ち、当社の意思を持って機動的に資金調達ができます。

## 新 株 式

株式の種類・数	当社普通株式 11,790 株
払込金額	1株につき59,400円
払込金額の総額	700,326,000円
割当先・割当株式数	メリルリンチ日本証券(株) 3,370株 伊谷 健太郎 8,420株
払込期日	2007年10月17日

## 新株予約権

株式の種類・数	当社普通株式 25,000 株 (新株予約権1個につき25株)
発行総数	1,000個
発行価額	1個につき16,025円
割当先・割当個数	メリルリンチ日本証券(株) 1,000個
払込期日	2007年10月17日
行使期間	2007年10月18日から 2009年10月16日まで

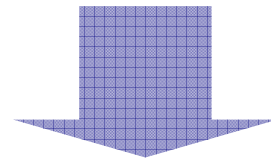
# 継続企業の前提に関する注記について

Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンスト・メディア

2007年3月期会計について1,262百万円営業損失を計上、また2008年3月中間期において906百万円の営業損失計上。

当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しており、08年3月期中間決算短信に継続企業の前提に関する事項を注記いたしました。



## 今後の方針

「経営改善計画」を着実に実行していくことにより、早期に売上の増大、費用削減を行い、収益性及びキャッシュフローの改善を行ってまいります。

**ありがとうございました**

株式会社アドバンスト・メディア  
経営戦略部 広報・IR担当

〒170-6048  
東京都豊島区東池袋3-1-1  
サンシャイン60 48F  
TEL:03-5958-1031(代)  
FAX:03-5958-1032



## 参考資料

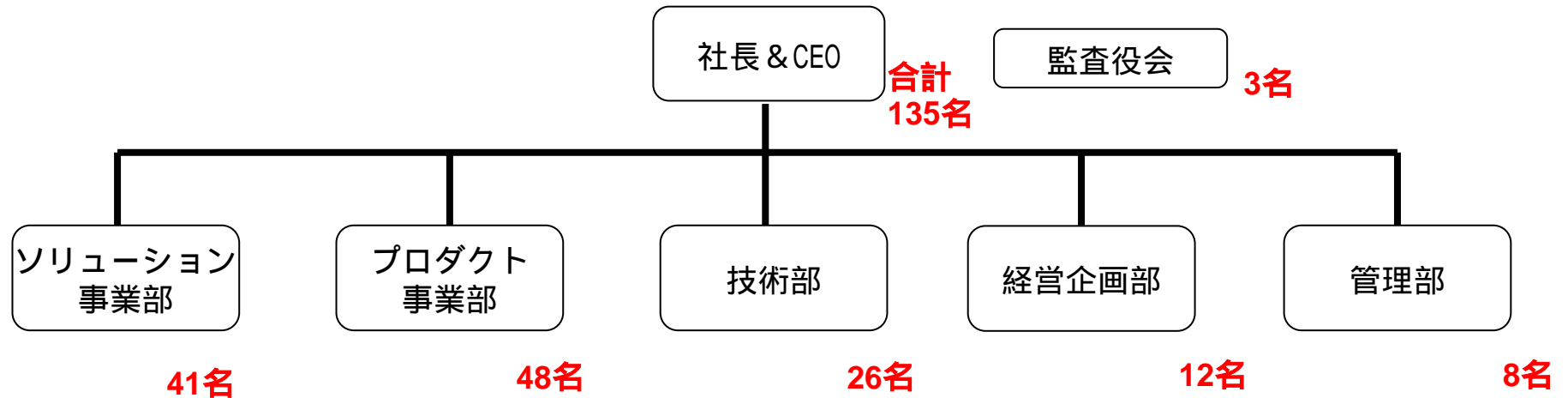
---

会社概要、沿革、他

- 会社名 株式会社アドバンスト・メディア
- 設立 1997年12月
- 資本金 40億6940万円（132,477株）（2007年10月末日現在）
- 所在地 〒170-6048  
東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 48F
- 電話 03-5958-1031（代表）
- 業務提携先 Multimodal Technologies, Inc.（米国）<持分法適用会社>
- 子会社 （株）MC2、（株）VDS、（株）VCS
- 事業内容
  - ・ アミボイスを組み込んだ音声認識ソリューションの企画・設計・開発を行う  
「ソリューションサポート事業」
  - ・ 「ソリューションサポート事業」で掘り起こされた市場のニーズに適合する  
パッケージ  
商品をライセンスとして提供する「ライセンス事業」
  - ・ 当社自身がアミボイスを使い、企業内のユーザや一般消費者へサービス提供を  
行う「サービス事業」
- 代表者 代表取締役 鈴木 清幸
- 主要株主 鈴木 清幸など
- 詳細は<http://www.advanced-media.co.jp/>をご参照ください。

- 1997.12 株式会社アドバンスト・メディア設立
- 1998. 1 米国ISIとの共同プロジェクトにより、*AmiVoice*エンジン（日本語音声認識エンジン）の開発に着手
- 2001. 5 *AmiVoice SDK, AmiVoice for Telephony* リリース
- 2001.12 *Multimodal Technology Inc. (MTI)*設立。  
MBOにてISIを吸収。（当社30%シェア所有、2名取締役派遣）
- 2002. 3 *AmiVoice for XBOX, AmiVoice for PS2, AmiVoice/DSR, AmiVoice for WinCE* 発表
- 2003.10 *AmiVoiceRewriter, CallScriber, Assist, Dialer, AmiReception*等のパッケージ商品をリリース開始
- 2004.11 *AmiVoiceDSR*チップ（ASIC）を搭載し、携帯に外付け装着する評価ユニットMini-Harp発表
- 2005. 3 愛知万国博覧会に日英中韓4カ国対応の受付案内ロボット（アクトロイド）をリリース
- 2005. 6 東京証券取引所マザーズ市場に上場
- 2005. 7 株式会社ボイスドメインサービス（VDS）設立。サービス事業を開始。
- 2006.10 優れた起業家を称える国際的な起業家表彰制度「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」の日本代表に鈴木清幸社長が選ばれる。
- 2007. 5 声紋認証システム *AmiVoiceGuard* 発表
- 2007. 8 NTTドコモ発売富士通製FOMA端末「らくらくホン」に技術提供。

# 組織体制



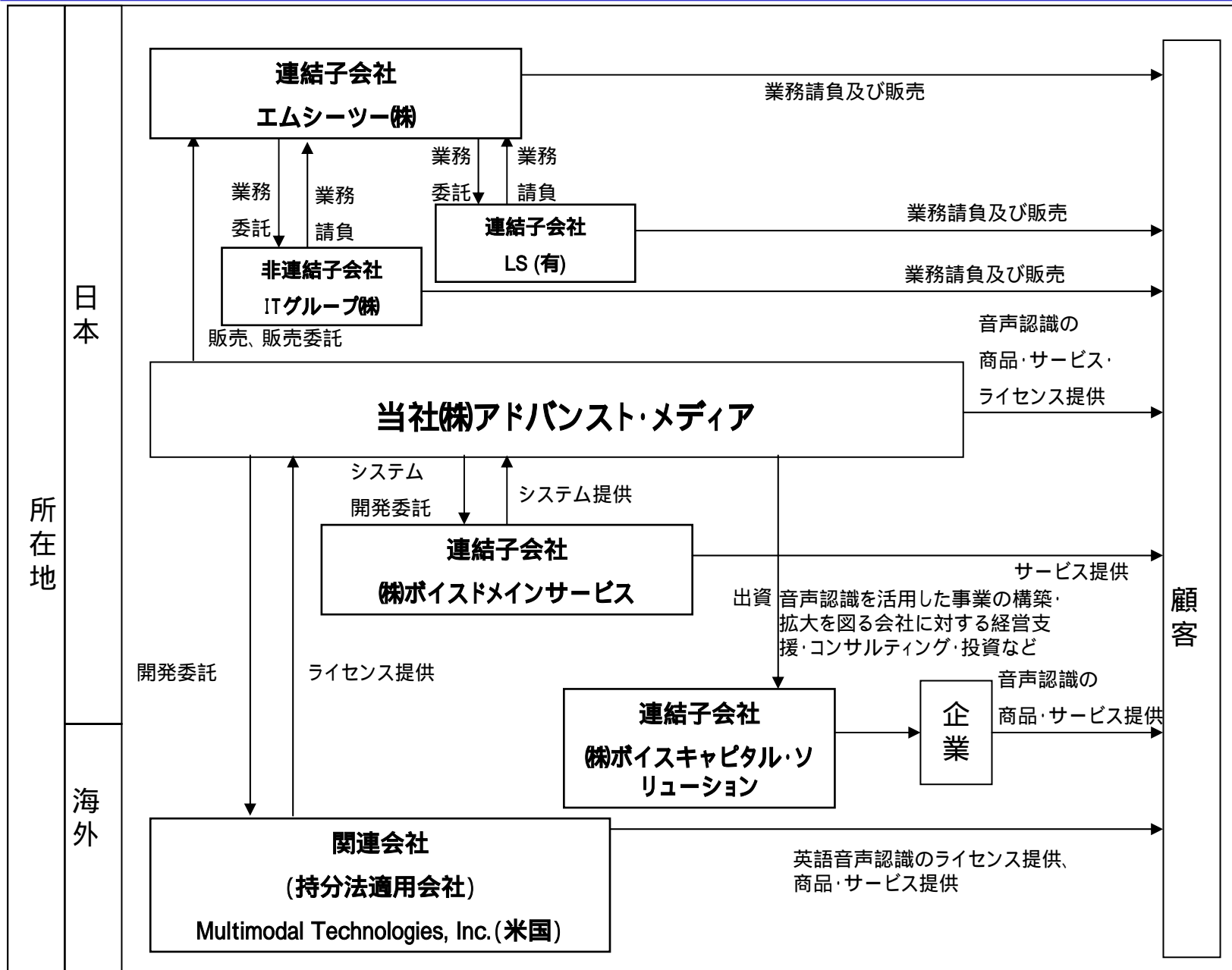
派遣社員・アルバイト含む

## 正社員数推移

2006年3月	2007年3月	2007年9月
85名	100名	83名

(非常勤役員を除く)

# 事業系統図



# 製品のご紹介



放射線 / 病理画像レポート、  
電子カルテ (大病院、診療所、  
歯科クリニック)、調剤・薬剤等

・AmiVoice Ex

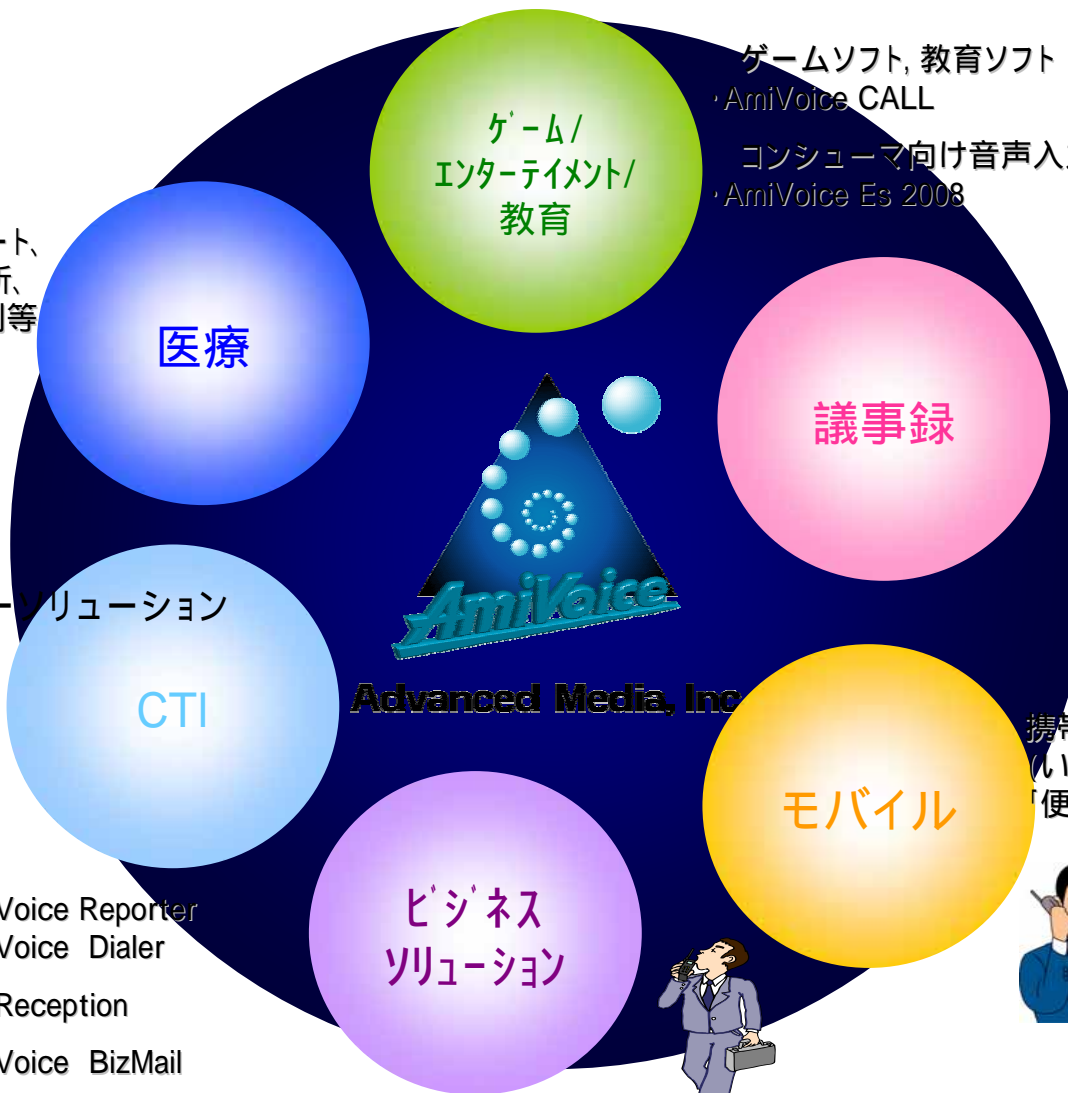


次世代コールセンターソリューション

- ・AmiVoice CallScriber
- ・AmiVoice Assist
- ・AmiVoice Interactive Responder (AIR)



- ・AmiVoice Reporter
- ・AmiVoice Dialer
- ・AmiReception
- ・AmiVoice BizMail
- ・AmiVoice SceneDirector
- ・AmiVoice Guard



ゲーム/  
エンターテインメント/  
教育

- ゲームソフト, 教育ソフト
- ・AmiVoice CALL
- コンシューマ向け音声入力ソフト
- ・AmiVoice Es 2008

議事録

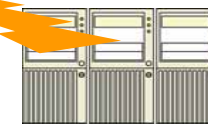
- 議会議事録
- ・AmiVoice Rewriter
- 株主総会支援システム
- 音声対応HP、バリアフリー、  
オペレーションフリー、人が公  
共施設や家庭で「簡単に」「便  
利に」必要な公の情報入手  
できるインフラ等

モバイル

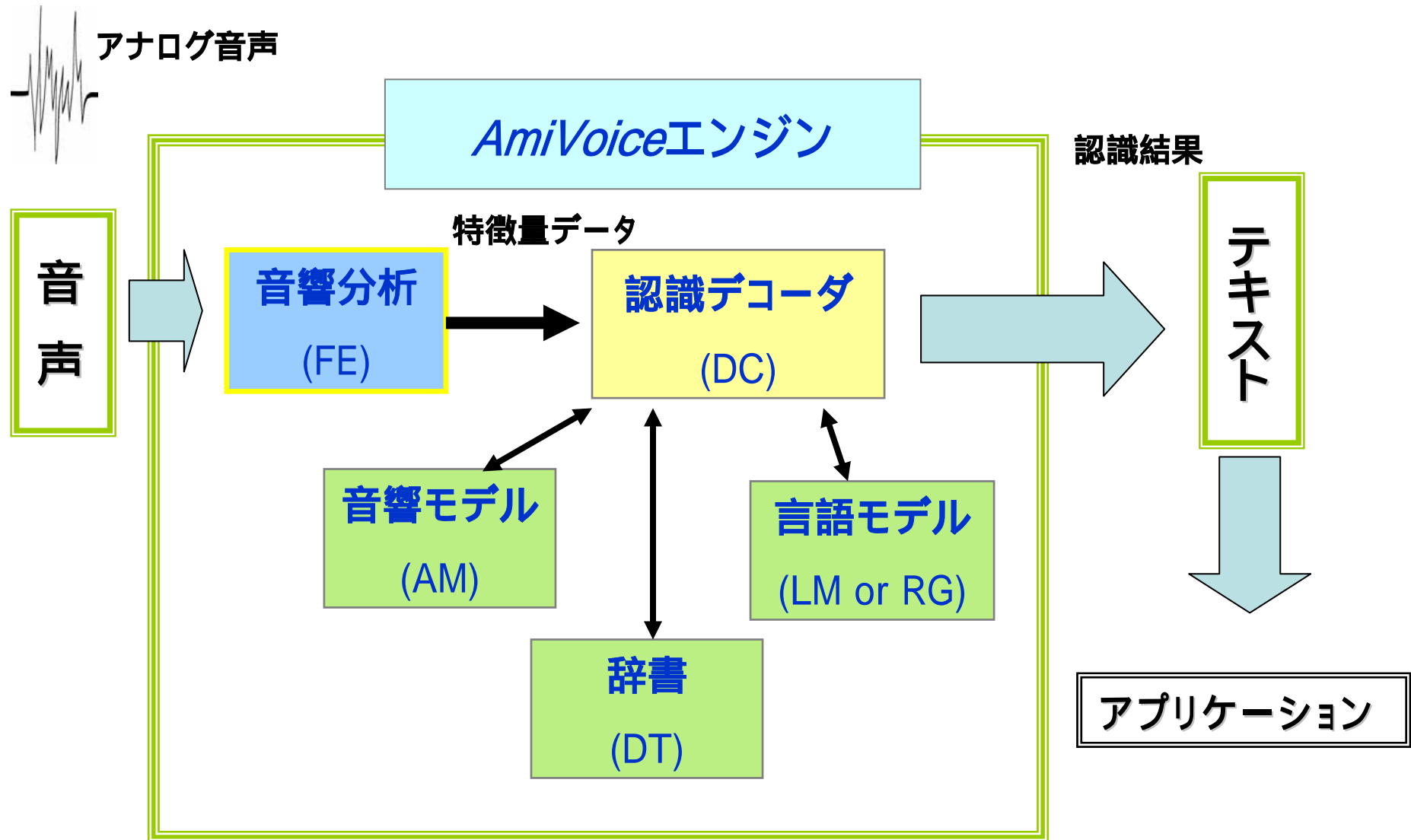
携帯DSRによるモバイルサービス  
(いつでも、どこでも、だれでもが  
「便利」「役に立つ」「ありがたい」)

ビジネス  
ソリューション

コンプライアンス、等

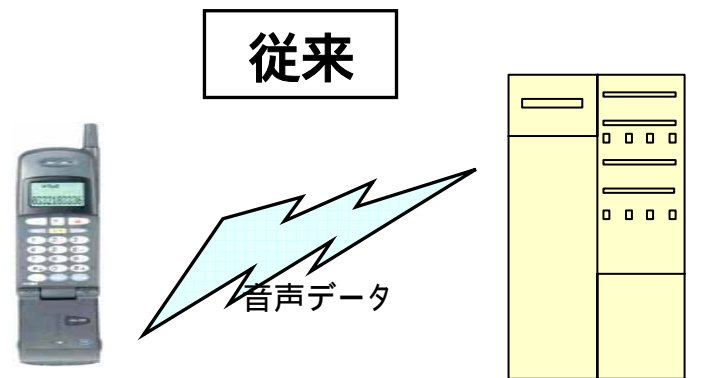


# AmiVoiceエンジン構造

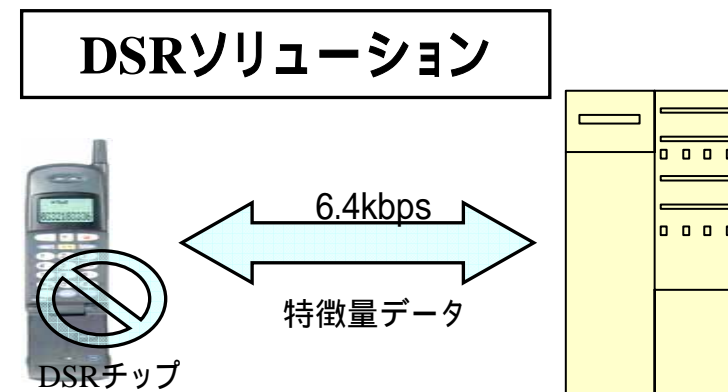


## モバイル端末に高精度で高度な音声認識インタフェースを！

- DSR (Distributed Speech Recognition)ソリューションとは、デバイスとサーバーに分割された音声認識システム。高精度で高度な音声認識インタフェース実現可。
- デバイス側でインプットされた音声は、「特徴量データ」に変換され、それがパケット送信されるので、従来の音声圧縮デコードによる劣化がなく高精度が期待できる。また、ノイズの混入余地が少なく、かつ、通信方式がTCP/IPであることによりパケットロスの影響も受けにくい。
- 1/30以下の圧縮率に相当する軽いデータとして送信される。(従来は1/5 ~ 1/10)

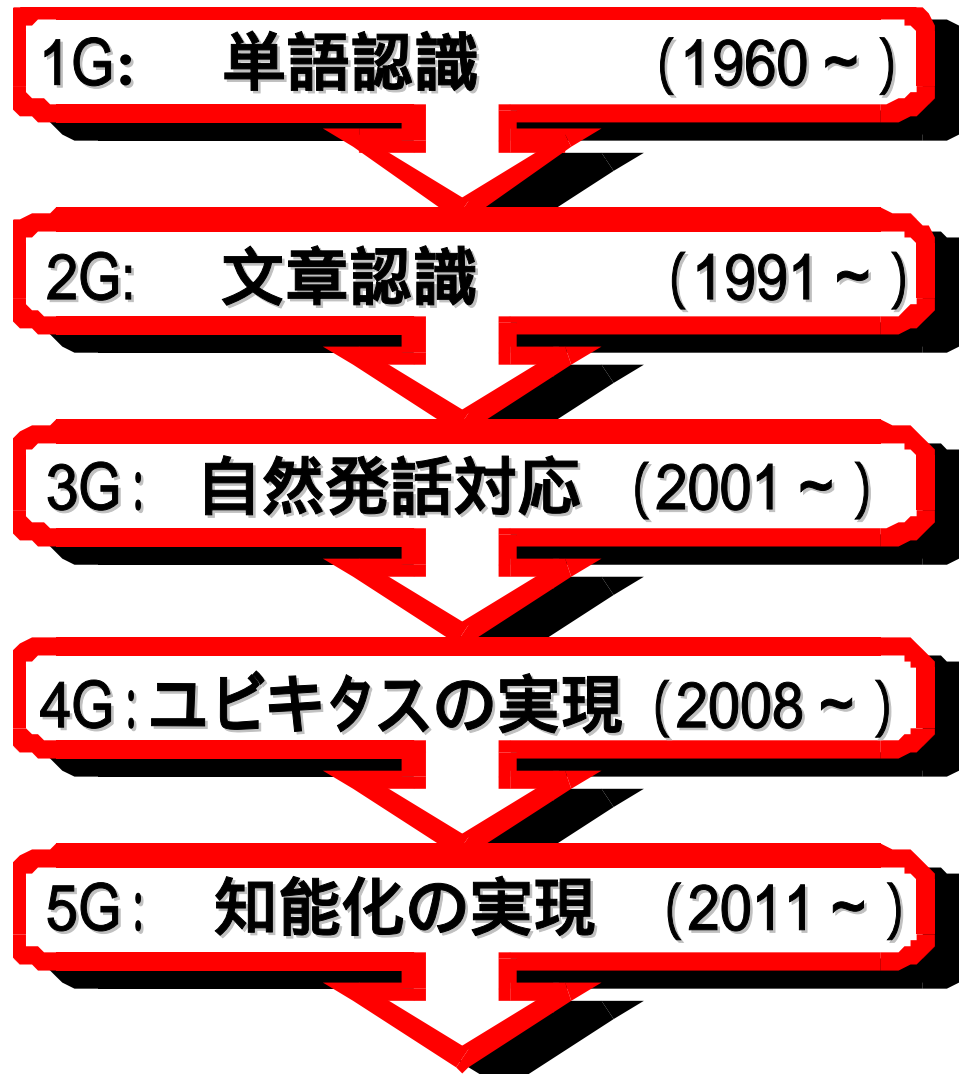


電話機から音声データが送信される際、圧縮により音声データが劣化、サーバーにおける音声認識が難しくなり、精度が悪化する。



デバイス側で音声データの劣化なしで音声認識の前処理が完了するため、高精度の音声認識が実現できる、しかも、伝送量は小さい。

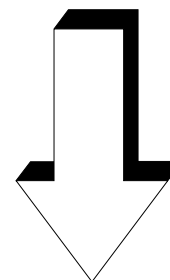




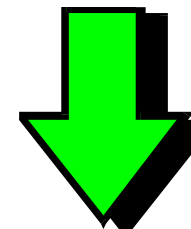
## 世代(G)のポイント

- 3G: 不特定話者性、スピードの変化、抑揚、アクセントの違いに対応
- 4G: 2-3m離れても認識可能
- 5G: 自然対話、知的推論機能

実用化の始まり



普及



アタリマエの世界